

## LPガスCP速報(2023年9月積)

### 1. 9積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **550**  $\text{ドル}$  (前月比+80  $\text{ドル}$ )  
ブタン **560**  $\text{ドル}$  (前月比+100  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、不需要期で需要が低迷するなか、原油市況の高騰が続き、市況は大幅続騰となった。スポット販売は低調、OPEC協調減産の影響で生産量が低下、低在庫からUAE、カタール、クウェートの入札がない。一方、中国のPDHは稼働率が再び低下し在庫高から買い控えられたが、新規プラントの立ち上がりでプロパンを調達、また、インド、ベトナム、インドネシア等から引き合いがあり、ナフサ高からブタン市況が回復、ブタン高に転じた。極東CFR市況は、フレート市況の高値推移もあり、第4週でプロパン640  $\text{ドル}$ 、ブタン630  $\text{ドル}$  どころ、前週比それぞれ30  $\text{ドル}$  の反騰となった。

米国市場をみると、輸出は引き続き好調(グラフ③)、供給は潤沢で、全米プロパン在庫は増加が続き前年同期比3割増し、5年平均レンジを上抜けている。モンベルビュープロパンスポット価格は、原油市況の急騰と中東市場の上げで続騰、熱波により輸出基地稼働率の低下、冷房需要が増加し、在庫高から第3週に320  $\text{ドル}$  まで下げたが、第4週には350  $\text{ドル}$  まで戻している。プロパンの月間平均は前月比30  $\text{ドル}$  続騰の353  $\text{ドル}$ /ト<sub>ン</sub> どころ(グラフ①参照)。ブタンはガソリンブレント需要が増加、400~380  $\text{ドル}$  で推移。

フレート市況は軟化したものの高値圏で推移となった。中東市場は、船舶需給が緩和、供給が上回る状況が続いたが、米国市況の高値推移で米国向けが増加、需給がバランスした。米国市場は堅調な輸出で、スポット運賃は(米国~日本)は170  $\text{ドル}$  で推移、パナマ運河の滞船を嫌いスエズ経由の運行もみられた。パナマ運河の滞船日数は、水位低下による制限もあり8月に入ると一時20日に達したが、予約なしの通航枠が確保され滞船日数は5~10日に緩和した。

ナフサ市況は反騰、月間平均は前月比71  $\text{ドル}$  の大幅上昇で658  $\text{ドル}$  どころ。原油市況の高騰と石化需要回復期待で上げており、石化用ブタンに競争力が出てきた。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比60  $\text{ドル}$  続騰の561  $\text{ドル}$  どころとなった。一方、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同130  $\text{ドル}$  大幅続騰の906  $\text{ドル}$  どころ、ガスオイルとC重油との格差は345  $\text{ドル}$  に拡大した。

9月CPは前年同月比プロパン100  $\text{ドル}$ 、ブタン70  $\text{ドル}$  のそれぞれ下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン6ポイント、ブタン9ポイント上昇、前年同月比ではプロパン横這い、ブタン4ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東)	103	102	100	95	100
CP先物指標:P	530	545	520	540	535
CP先物指標:B	525	555	535	545	540

#### ② 原油市況等

8月の原油市況は続騰、第2週まで7週連続の上げとなり9日には年初来高値を更新、昨年11月以来の高値となった。OPECプラスの協調減産、サウジ、ロシアの供給削減と中国の景気刺激策への期待から世界的な需給逼迫懸念が市況を押し上げた。一方、金融市場は、追加利上げの懸念が熾ぶり、中国経済(不動産セクター)の低迷で、先行き不透明感が強い。原油市場は、ファンダメンタルズは需給タイトながら、夏枯れの薄商いのなか、出来高は低水準となり、ボラティリティも低下、イラククルド自治区、イラン、ベネズエラの供給増加の可能性が報道され、80  $\text{ドル}$  を挟んで方向感に乏しい展開となった。

○8月積みアラビアン・ライト(8月1~30日までの想定)は89.70  $\text{ドル}$  (前月比+6.21  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン735.45  $\text{ドル}$ /ト<sub>ン</sub> ブタン725.36  $\text{ドル}$ /ト<sub>ン</sub>

AL比 プロパン74.78% ブタン77.20%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

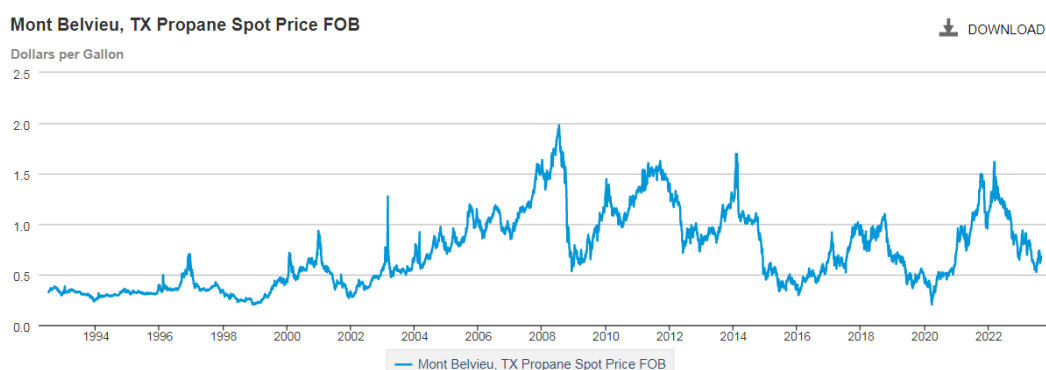
## 2. 2023年9月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
7月月間	145.84	83,200	85,100	+10,400	+15,000

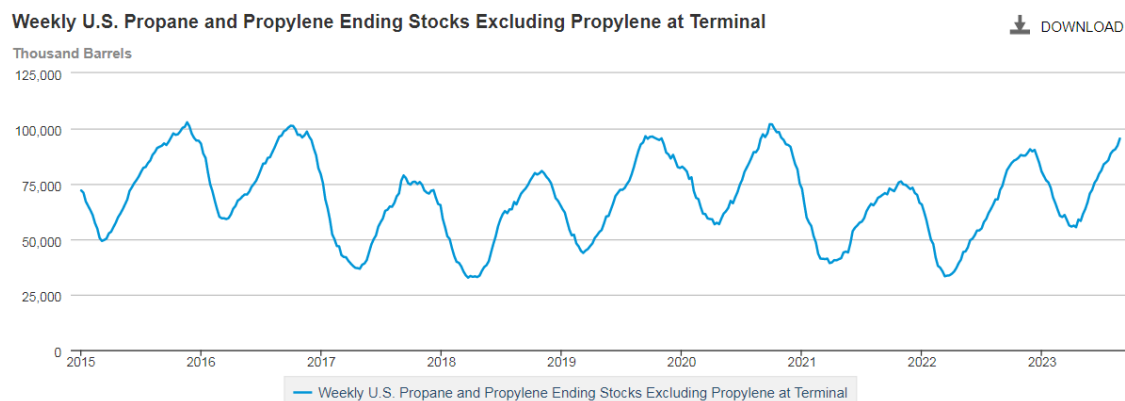
\* TTS平均等について、各社の適用為替レートが4月仕切改定から月間平均に統一された。上記は8月1～31日までの平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成の比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれるが各社で異なる。

なお、上記MBは8月29日までの価格を基にEINで試算（353ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米国プロパンスポット価格推移



### ②米プロパン在庫推移



### ③米プロパン輸出量推移

